（別紙2）　　令和　元　年度

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	1892400027		
法人名	社会福祉法人　若狭町社会福祉協議会		
事業所名	認知症対応型　グループホーム五湖の郷		
所在地	福井県三方上中郡若狭町田井24-2		
自己評価作成日	令和　1年　10月　10日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/18/index.php

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人　福井県社会福祉協議会
所在地	福井県福井市光陽2丁目3番22号
訪問調査日	令和　1　年　10　月　24　日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

運営推進会議、近隣サロンとの交流、五湖の郷他事業所との交流、五湖の郷事業所を利用してのカフェボランティアへの参加　等、地域と関わる機会を多く持てる環境にいる。五湖の郷職員も実行委員として参加する「梅の里夏まつり」は五湖の郷を会場として、地域の一大イベントとして今年第2回を開催出来た。今年は、グループホーム入居者の日常の活動で製作したマスコットやレース編みを販売するなど、全員で協力することが出来た。
地域包括支援センターや他事業所の職員・ボランティアと共にキャラバンメイトとして、認知症の理解促進の為の活動にも参加している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

当事業所は自然豊かで静かな環境の中、広大な敷地に老人福祉施設、デイサービスセンター、障がい者のケアホーム等が併設する複合施設内にある。デイサービスには馴染みの方も来訪し、交流の場となっている。また、地域のボランティアが運営するカフェは、利用者の働く場や楽しみの場となっている。近隣地域3か所で行われているサロンとの接点があり、利用者の活動範囲が広がっている。さらに、近くの保育園の園児たちの活動を見ることができ、穏やかな日常生活を送る一助となっている。地域住民との交流を大切に、利用者が自分の出来ることを生き生きと楽しみながら過ごす、笑顔を大事にする事業所である。

Ⅴ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる （参考項目：23,24,25）		1. ほぼ全ての利用者の
		○	2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある （参考項目：18,38）		1. 毎日ある
		○	2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている （参考項目：38）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている （参考項目：36,37）		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている （参考項目：49）		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている （参考項目：30,31）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている （参考項目：28）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている （参考項目：9,10,19）		1. ほぼ全ての家族と
		○	2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている （参考項目：2,20）		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度
		○	3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている （参考項目：4）		1. 大いに増えている
		○	2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている （参考項目：11,12）		1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
		○	3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての家族等が
		○	2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、（Altキー）＋（Enterキー）です。〕

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域の一員として活動できる場は少ないが、地域に根差した施設を目標に日々の業務を行っている。	母体である社会福祉協議会の理念に沿った、事業所独自の理念を作成している。理念は居室、共同空間につながる廊下に提示し、常に職員が意識できるようにしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	保育園・小学校・サロンといった各種団体との交流の場を作り、地域行事への参加を心掛けている。	近隣地域3か所のサロンに利用者が参加できるよう、支援に努めている。隣の保育園との交流も大切にするとともに、同敷地内のデイサービス利用者との交流も楽しみとなっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	推進会議やサロン等で、認知症についての体験を交えた話をする場を設けることが出来ている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	活動報告から、事業所への理解を深めてもらっている。地域の現状を聞きながら共に活動出来ることを検討し、互いの生活の向上に繋げる努力をしている。	3ヶ所のサロン代表、公民館職員、家族代表、地域包括支援センター職員の参加を得て、年6回実施している。参加者の都合を優先し、農繁期を避け時期を決めている。議事録は、家族に送付している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議やキャラバンメイト連絡会、サロンへの協力等、関わりを続けている。	運営推進会議等を通じて関わりがあり、気軽に電話で相談することが出来る。職員がキャラバンメイトとして活動を行い、事業所の活動等を伝える機会を設けている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	危険を回避する手段として、センサーの使用や必要に応じた施錠を行っている。家族への理解を得る一方で生活を制限している認識を職員が忘れず、業務に当る様務めている。	玄関の錠は、職員の対応人数の関係でやむなく施錠することがある。職員は拘束について理解しており、言葉による拘束については気を付けて対応している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	会議の中で確認し、日々の業務の中で互いに注意・確認を行っている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	公の研修は受けていないが、生活を送る中で必要な知識を取り入れる等、必要に応じ支援に繋げている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時・面会時に施設や本人の状況を伝え、家族の思いも聞き出せるようにしている。家族会等で全体へ周知や意見交換の機会も持っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族への連絡を内容に合わせ、主任・ケアマネ・担当が取ることにより、意見をきく窓口を広げている。介護計画の同意書に自由意見欄を作り、書面での意見も受付ている。	本人主体で考え、家族からの意見はサービス計画書に了承印欄と意見欄を設け、郵送している。出された意見・要望や年2回の家族会での意見・要望を反映できるよう話し合っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	評価制度の中で意見を述べる場、定例会議での意見交換等を聞く機会とし、反映できるよう努めている。	職員数の関係で会議に全員が出席することは困難であるが、職員は利用者主体の運営を意識して支援を行うよう、意思統一に努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	事業所長が現場に足を運び、職員や利用者に声を掛けている。面談を行うことで個々に意見をきく場を設けている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	評価制度により、必要と思われる職員への研修を実施している。事業所へ必要と思われる研修への参加、また五湖の郷として委員会を設置し、必要な研修を計画している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	取り組みとしては少ないが、他事業所との交流等の活動については、推進している。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	個別に関わる時間や担当を置くことで思いを聞きとれる時間を作っている。言葉で伝える事の出来ない利用者についてはサービスを実施・モニタリング等を繰り返すことによって過ごしやすい環境を提供できるよう取り組んでいる。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	申請のあった時点から相談窓口として関われるよう声を掛けている。家族が不安や後ろめたさをもったまま施設での生活を送ることの無いよう心掛けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	それぞれが求めていることを知り、理想に近づけるよう対応を考えている。今後予想される事態についても視野に入れ、対応に時間がかからないよう準備をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活の中で役割を持ち、自主的な行動を行えることを目指している。自分の為だけではない活動に対して感謝を伝えるようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	衣替えや受診を任せる事、情報提供・相談を行うことで家族に関わってもらえるようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会を待つだけでなく、電話や手紙といった通信手段の援助をしている。希望する地域行事や、家族行事にも参加できるよう協力体制を取っている。	同敷地内で開催のカフェ運営を利用者が手伝ったり、客として参加して、地域住民との交流を深めている。またデイサービスに地域住民が訪れた時は、出向いて会話を楽しんでいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	生活レベルや認知症の症状を考慮し、共同室で心地よく、有意義な時間が過ごせるよう配慮している。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所時に相談窓口として気楽に連絡をしてもらって良いと伝えている。また、顔を合わせる機会があれば積極的に声を掛けるようにしている。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	会話や表情から気持ちが読み取れるよう、対応にゆとりを持つ努力をしている。必要に応じ、家族も含めて話し合う機会を設けている。	日頃の関わりの中の言動等から、意向の把握に努めている。把握した意向は職員間で共有できるように、ノートに記載している。出来るだけ要望に沿えるよう話し合い、家族にも了解を得る努力をしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家での生活を持ち込んでもらえるよう空間作りから取り組むようにしている。決まった時間の集団生活にならないよう気を付けている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	食事・排泄・バイタル・個別活動の様子など、日常を記録する事で変化に気付け、情報を共有しより良い対応を心掛けている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的にケース会議を開き、計画の見直しを行っている。各担当が関係者と連絡を取り、個々に合った目標を立てている。	職員が気づいたことは記録に残し、担当職員とケアマネが連携して計画づくりを行っている。ケア会議に提出された計画書をもとに意見を出し合い、個々に合った計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	計画に対する記録を生活の記録と両方残すようにしている。他職員が書いた記録を読み返すことから情報の共有・確認に繋がっている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	要望があれば支援する、要望を見つけて実現する事を心掛け、行事計画を立てている。本人の能力を発揮できる場の提供にもなっている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣住民との交流の中でできた関係を大切にし、より近しい関係を築けるよう活動を続けている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前のかかりつけ医の継続と家庭の事情に合わせた訪問診療を選択してもらっている。	基本は入所前のかかりつけ医を受診するが、家族による受診支援が困難な場合は、訪問診療に切り替える利用者もいる。緊急時は職員が対応し、家族へ確実に連絡している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	事業所の看護師や、施設内医務室看護師への情報提供・緊急時の病状相談ができる体制となっている。直接かかりつけ医へも相談できている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には家族・病院連携室・地域包括支援センターと情報交換を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に重度化した場合の施設対応については了承を得たうえで、状況に合わせて家族や関係機関と連携し本人・家族に負担がかからないようにしている。	入所時の契約の際に説明を行っている。車いす生活になれば、他の施設への移行について家族に説明している。利用者の状態が変化してくると状況説明を頻繁に行い、家族の思いも確認し、意向に沿った支援を行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	感染症に対しては施設内で委員会が設置されており、必要な研修等が行われている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	施設内で委員会が設置されており避難訓練等を実施している。(屋内退避、屋外避難、情報伝達訓練、原子力災害)地域との協力体制については今後の課題として検討中。	年2回、避難訓練を実施している。地域との連携が重要と理解しているが、地域の高齢化により協力体制を構築することは課題が多い。難聴の利用者への対応も工夫している。	年2回の火災訓練時に、利用者がどのような反応を示すかを細かく観察し、行動パターンを分析して、夜間の緊急時の対応を話し合い、利用者が安全に避難できる支援を期待する。

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	心掛けてはいるが、十分でない部分については職員同士が互いに注意できる関係作りを進めている。	職員は利用者の尊厳に配慮し、個々の排泄に対しては、言葉遣いに気を付けながら、さりげない見守り介助を行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一方的な提供にならないよう意識して支援している。自主的な行動が取りにくい方へは、具体的な選択肢を準備し、自分で選ぶことのできるようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の基本的な流れは決まっているが、時間に追われることが無いよう、また嫌だという意思表示があった時には聞き入れることの出来る余裕を持つようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着替える服の選択を一緒に行っている。季節に合った服や外出時の着替え等助言をしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者に調理、配膳、片付けに積極的にかかわってもらっている。買い物同行時に食材やおやつを選んでもらうこともある。	事業所の前に畑を作り、利用者は出来ることをしながら野菜づくりを楽しみ、採れた野菜を食卓で囲んで話題にしている。また、職員と一緒に買い物に出かけ、みんなで食べる菓子類を買うことも楽しみとなっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	主となる献立は栄養士が管理を行っている。定期的な体重測定を行い、医師とも相談し、食事の量を決めている。コーヒー・紅茶等好みのものを提供する事で水分量の確保に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	声掛け、介助等利用者に合わせて支援を行っている。定期的な歯科検診を実施し、歯科医との連携も取れている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	気になることがあれば、プランを立て実施、見直しを繰り返し個々に合わせた支援を行えるようにしている。	排泄が自立している利用者もおり、さりげなく見守りを行っている。個々の排泄パターンを把握し、時間的な誘導が必要な場合は対応している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	好みに合った水分摂取やトイレに座る時間の確保、排便の記録をしている。おやつや散歩、体操などで自然排便をうながし、必要に応じて主治医と相談し服薬の調整をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	大まかな入浴日は決まっている。状況に合わせ、柔軟に曜日や時間を変更したり、入浴する気持ちの準備から取り掛かれるよう関わっている。	原則、週2回午前中に入浴し、個浴で対応している。個々の気持ちを大切にした言葉遣いを心掛け、入浴を楽しめるよう配慮している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	室温・明るさを時間や天候に合わせ調節している。バイタルや表情、動作から休みやすいような声掛けを行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	変更があった薬剤について、看護師より申し送りがあり、その後の様子についても期間を区切り記録を残す等体調の変化に気を付けている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	自主的な活動を行えるよう、道具を複数準備している。個別活動の記録を残すことで、職員が提供した活動を引き継いだり、興味の有無が把握できている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	計画を立てて個別・集団での外出を行っている。農作業や散歩等敷地内ではその場に応じて外に出る時間を持つようにしている。その日の希望で敷地外へ出ることは職員の体制上難しい。	広い敷地を活用し、日常的に戸外へ出ている。また利用者の希望に添えるように、家族と連絡を取り、外出への協力が得られるよう努めている。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の希望を聞き、家族と相談の上、本人の管理できる段階に合わせ支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	事前に家族に了解を得、電話の手伝いや郵便物の協力等、認識力に合わせて支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	掃除・整理整頓を実施している。季節に合わせた装飾を利用者と共に作成している。窓からの景色やほどほどの空調管理により体でも季節を感じられるようにしている。	大きな窓からは畑や緑の木々を目にすることができ、季節を感じられる。整理整頓が行き届き、居心地のよい空間である。	共同空間は明るい雰囲気だが、季節を感じられる展示物がない。塗り絵をする利用者もいるので、作品の展示などを通して季節感のある心地よい空間の中で過ごせるような工夫に期待する。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	あちこちに椅子を設置し、居室以外でも一人で過ごせたり、隣り合わせでソファーに座り近い距離で話をすることもできている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家からの家具の持ち込みを推奨している。希望に合わせ作品や写真等を自分で飾り、安心できる空間作りを支援している。	居室は明るく、家族の写真が飾られたり、馴染みのものが置かれ、個々の空間を楽しめるよう配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ネームプレートや案内板等で自分で場所を確かめることが出来るようにしている。先回りして支援してしまわないよう気を付けている。		